

2016年度(平成28年度)用
自己点検・自己評価報告書

学校法人 水野学園
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪
自己点検・自己評価委員会

◆評価項目の現状および自己点検・課題・今後の改善策等

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	1966年創立時に定められてた理念は再度推敲され、2015年より多校化に合わせたものとなった。これらを学生ハンドブックに掲載することで、学生全体への周知が進められている。
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>教育理念の学生への浸透は順調に進められているが、具体的な育成人材像を周知させられていない。 また、文部科学省が各大学に求める3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を設定すべく、具体的な検討を行っていきたい。</p>		

項目 2	教育活動		
【現状】	3	各コースのカリキュラムは体系的に編成されているか	各学年での目標レベルに到達するために、各コースとも体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、毎年見直され、学年を超えて多角的に検討されている。
	4	授業評価の実施・評価体制はあるか	授業そのもの(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行っている。また学生による教員評価アンケートを9月に実施し、学生評価も教員にフィードバックしている。
	5	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。
	6	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、筆記試験・実習課題成績により判定されている。
	7	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 2016年度よりウォッチメーカーコースを開講し大阪校においても複数コース体制となったが、毎月の教職員会議および教員によるスタッフミーティングを通じ、ジュエリー・ウォッチを問わず日々活発な意見が交換され、双方のコースのカリキュラムを多角的に検討・見直しされている。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後は専門学校の使命である職業人を育成するため、ビジネス関係の講師の登壇、またコミュニケーション能力向上の為のプログラムを強化する必要があると考えている。</p>		

項目 3	学校運営		
【現状】	8	経営方針に沿った事業計画は策定されているか	前年度末に翌年の運営方針、事業計画、運営予算を作成し、理事長・学校長の決意を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて執行している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた事業計画、運営予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて業務を執行している。
	9	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、学園本部において毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、大阪校では全教職員を対象とした「教職員会議」を年10回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、毎年しっかりと実行されている。 2016年度は上記、教職員会議を通して教育内容のみならず教職員の勤務時間の適正化や業務量の見直し等にまで検討が及んだ。 2017年度に向けて、教職員の勤務満足度も向上させたいと考えている。		

項目 4	学修成果		
【現状】	10	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2017年3月31日現在、求職者就職率は96.4%と、昨年を上回る結果となった。特に制作職での内定者が内定者全体の40.0%と昨年の36.8%を上回る結果となった。
	11	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースにおいて、例年指導している貴金属装身具製作技能検定の受験結果は2級合格率30.8%、3級合格率88.9%と前年を下回る結果となった。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2016年度に初めて企画した「東京・甲府企業見学旅行」では、学生8名が参加して東京と甲府の企業5社を見学。そのうち4名が内定を取得するに至った。他にも学内合同企業説明会を通じて内定者が決まっており、学生が直接各企業様と接する機会が重要と考えている。		

項目 5	学生支援		
【現状】	12	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催の就職ガイダンスを卒業前年度12月から実施し、業界知識や職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導している。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行っている。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応している。2016年度は就職専用WEBサイトの全面改訂を行い、スマートフォン対応が可能になるなど、学生の利便性の向上に努めた。
	13	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、年間2回にわたる学生アンケートの実施や、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通じ、より細かい学生の相談体制を構築している。2016年度からは、教務スタッフによる在校生個別面談を全員を対象に実施。従来の担任面談も合わせて双方向より学生を指導・支援する体制が構築されている。
	14	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて個人相談を行っている。
	15	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、毎年5月～6月に全学生の健康診断を実施している。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。教職員にも大阪市消防局による上級救命講習受講を義務付け、学生の健康・安全管理に努めている。
	16	保護者と適切に連携しているか	毎年2回、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付している。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「Volare」という小冊子を作成・同封している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制はさらに充実し、学科によってはその成果が学生の離脱率の減少、進級率の向上等に反映されつつある。		

項目 6	国際交流		
【現状】	17	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	学務課教務担当が全留学生の状況を把握し、東京校「留学生センター」及び入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。2016年度はその役割を強化し、学生のビザ更新の際の書類作成指導や、必要な推薦状の準備等、留学生が円滑に在留資格を取得更新できるよう種々の工夫がなされた。また、卒業後の帰国確認も強化され、卒業後不法滞在者ゼロの徹底を図った。
	18	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	毎年恒例となっている海外大学の交換留学について、春期(4月～7月)に1名、フィンランドより交換留学生を受け入れた。また本学からの交換留学生送り出しについては社会情勢不安等により見合わせる事となった。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	毎年実施している海外研修旅行について、社会情勢不安等により、一部実施を見送った。2017年度は滞在先の選定および日程等について、より安全性を重視した企画をたて、再開したいと考えている。		

項目 7	教育環境		
【現状】	19	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしており、各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。 2016年度は1階ギャラリーの運用方針を変更し、学生が作品に触れあう活気のあるギャラリーを目指し、レイアウト変更の他、カフェの設置や簡単な作業スペースを設け、来校者にも学生の作業風景を間近で見れる環境を整えた。
	20	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	昨年度評価委員会での指摘を受け、非常食は従来の3日分から5日分へと増備した。 また、津波の到達水位予測を勧告し、8Fに防災備品倉庫を新たに設置した。		

項目 8	財務		
【現状】	21	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決意を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	22	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。 毎年度(5月)、監事2名による会計監査を行っている。
	23	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。 関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目 9	法令等の遵守		
【現状】	24	法令(個人情報保護含む)、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	「個人情報規定」など様々な規定に則り、法令順守についての総合的な管理にあっている。様々な規定集は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。
	25	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。自己点検・自己評価の結果については、ホームページを通して公開することとしている。		

項目 10	学生の募集と受け入れ		
【現状】	26	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	27	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	適正に実施されている。 18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集についても特に広報活動を強化し、中国・韓国・台湾など、5つの国や地域から留学生を受け入れている。2016年度は全学生の16.3%が留学生となり昨年の10.5%を上回る留学生が本学で学んでいる。		